

がんばる
皆さんを応援!

モトタニ鐵工建設(株)

モトタニ鐵工建設株式会社は建物の骨格となる「鉄骨」を図面から製作し、現場までの施工を一貫して手掛ける企業です。新型コロナウイルスの感染拡大による影響の中でも新たな設備を導入するなどチャレンジを続けています。社長の本谷博幸さんと総務部の本谷ゆかりさんに「コロナ禍」の現在と「アフターコロナ」の展望などについて伺いました。

創業のきっかけ

会長で、博幸さんらの父である幸一さんはもともと富山市内の自動車溶接会社に勤めていましたが、1979年(昭和54年)に独立。86年(同61年)に法人化したそうです。

「会長夫婦が、30代後半に会社を立ち上げてから、41年目です。最初は車庫とか倉庫とか小規模な建造物の鉄骨や手すり・階段などを手掛けていましたが、その後、ゼネコンから注文が入るようになり、会社は成長しました」社員の年齢層は、鉄工業界平均値より若く、従業員は15人います。未経験者で入社した20代の若い社員達もとても筋が良いそうで、資格免許を取りながら、技術向上に日々努めています。

地域に密着した建物

鉄骨施工実績の写真を見せて頂きました。

「事業エリアは富山・石川・福井の北陸3県や新潟・岐阜などの隣県です。公共事業や、富山県内の小・中・高校の校舎の外側に設置した耐震補強工事も数多く手掛けました」

地域に密着した事業を行い、社会へ貢献できることの喜びや、感謝や、やりがいにつながっていると博幸さんは話します。



▲当社が手掛けた富山県民会館の入り口

外注依頼から自社で加工へ

今年、新型コロナウイルスの影響で売り上げが大きく減少しました。さらに、これまで仕入れをお願いしてきたメーカーや流通等に混乱が生じました。そこで、これまで外注していた作業を自社でやることと新たな試みをスタートしました。博幸さんは手応えを感じています。

「加工の方法の一つである『ショットブラスト工程』を自社で行えるよう、

ラインコンベア(架台)を導入しました。この

工程は金属の表面に鉄鋼の小さな球(ショット)を噴射して不純物を除去する表面加工で、

7月からスタートしています」

新設備を導入したことにより、早く作業ができる上、経費の削減が期待できます。そして、安全第一に、手堅く仕事を続けることで信頼を守り続けることができると思っています。なお、この試みに対して国の小規模事業者持続化補助金事業(コロナ特別対応型)の交付を受けるべく、当所の支援を受けて作成した計画書を現在申請中です。



▲溶接作業中の様子(工場内)

ものづくりの精神

製造業はサービス業などと比較すると休日が少なく、人材確保に苦心することも少なくありません。しかし、博幸さんは前向きです。

「ものづくりの精神はすたれることがありませんし、いつの時代にも熱い心を持つ志はいると思います。製造業ならではのものづくりの大切さを若者に伝える企業風土の醸成を目指しま

す。そして地域に貢献し必要とされるいい仕事をする事しかないと感じています」

また、「職場環境をよくするため、声掛けや気遣いを心掛けるなど社員全員が働きやすい職場を目指しています」と博幸さん。

「コロナ禍」の中、ものづくりの気概と社員への愛情を忘れず頑張っている「モトタニ鐵工建設株式会社」を当所はこれからも応援していきます!



▲幅広い年代の社員

国土交通省認定工場 Mグレード
一級建築士事務所

モトタニ鐵工建設(株)

事業内容
・鉄骨建築加工等



富山市萩原300-1

☎076-423-4621

URL <http://www.mototanitekkco.co.jp/>

